

第9回三木市学校再編検討会議 要旨

日 時： 令和元年8月22日(木) 午後7時～8時

場 所： 市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 加治佐哲也 兵庫教育大学 学長
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 理事
黒井 俊光 三木市連合PTA 前副会長
前田 信利 平田小学校 校長（小学校校長会）
野口 博史 緑が丘中学校 校長（中学校校長会）

事務局 西本則彦教育長、石田英之教育総務部長、奥村浩哉教育振興部長、五百蔵一也教育総務課長、坂田直裕学校教育課長、鍋島健一学校教育課副課長、山口正明学校教育課副課長、山本智康学校教育課主査、小柳陽学校教育課主査

傍聴人の数： 15名

1 開会（会長あいさつ）

6月25日に喫緊の課題となっている学校の再編に関する提言をお示しした。その提言案を持って、喫緊の課題とされる地域7か所で説明会を実施し、ご意見をいただいている。それをもとに、前回お示しした提言案を少し修正している。今日はそれについてお諮りしたい。そして、必要であれば修正等を加え、教育委員会に提言書として提出したい。

順調にいけば、喫緊の課題である地域の学校については、一つの区切りを迎えることになる。そういう意味では、今日は、節目となる重要な会議になる。

2 事務局報告

【志染中学校区】

- ・提言案については、おおむね了解が得られた。
- ・バスによる通学対象者の範囲、街灯の設置、自転車通学の安全等についての要望があった。

【星陽中学校区・口吉川地区】

- ・提言案については、多くの異論が寄せられた。今回の説明会においては、三木中学校との統合を支持する意見が多く聞かれた。
- ・地域での意見交換会等で小中一貫校をいつどこに設置するのか教えてほしいと要望していたが、それが示されないままに提言（案）で統合校が示されたのが残念だという声があった。

- ・7月の区長協議会では、「三木中学校と統合するのがよい。」という話し合いがもたれたという報告があった。
- ・生活圏は三木方面にあるという意見があった。
- ・星陽中学校を分離することには不安があるという意見があった。
- ・事前に小学校で実施したアンケートでは、「三木中学校との統合」と「吉川中学校との統合」は同数ぐらいだった。その結果から、「吉川中学校との統合」を希望している方もいるので、この会で、全会一致で「三木中学校と統合」となるのはおかしいという意見もあった。

【星陽中学校区・細川地区】

- ・提言案については、おおむね了解が得られた。
- ・丁寧に進めてもらっていることに感謝するという声をいただいた。
- ・口吉川地区でいろいろな意見があったということで、統合が遅れないか心配だという意見があった。
- ・教育委員会が示した通学方法の案については、距離や安全面等いろいろな意見があった。

【上吉川小学校区】

- ・提言案については、おおむね了解が得られた。
- ・令和2年度には、完全複式学級になる可能性があり、統合までの1年間の教育が心配だという意見があった。

【みなぎ台小学校区】

- ・提言案については、おおむね了解が得られた。
- ・統合することによって、通学バスの往来や自動車の通行量の増加など、学校周辺の交通事情の変化に不安があるという意見があった。
- ・学校行事等の際に、駐車場を確保できるのか心配という意見があった。

【中吉川小学校区】

- ・中吉川小学校に集約することはできないかという意見があった。1クラスを2つに分けて行う少人数指導、アフタースクールで使用するための教室数や、登下校時に5台の通学バスが学校周辺に停車する場所の確保などの課題を説明したところ、おおむね理解をいただいた。
- ・通学方法について多くの要望があった。

【東吉川小学校】

- ・小学校のPTAは学校の存続を強く望んでいた。一方、就学前の保護者は4校同時の統合を望んでいるという声があった。
- ・4校がみなぎ台小学校の施設に集まることになるが、その学校はみなぎ台

小学校なのか、それとも新しい学校が始まるのか、という質問があった。4校の学校それぞれの文化を持ち寄って新しい学校を創るという考えであることを伝えた。

- ・東吉川小学校が後から統合することには不安があるという意見が聞かれた。
- ・小学校のPTAの方と、就学前の保護者の方が話し合いを進めてほしいと伝えた。

(会長)

これから小学校の保護者になる方への対応、情報の伝え方が難しいと感じた。市の会報等で伝えてはいるが、子どもが日常的に学校へ行っているわけではないので、当事者意識を持って受け止められていなかったのではないかと感じた。今回のことを活かして、今後は情報の伝え方について考慮しなければならない。

(事務局)

説明会の中でも「なかなか情報をもらえなかった。」という意見をいただいた。

これまで地域の方や就学前の保護者の方に情報を伝えるために、ホームページや自治会の回覧を活用して、全ての方に情報が行き渡るように努めた。また、ポスターを作って、三木市内のすべての就学前教育施設に説明会の案内を掲示するなど、様々な周知方法を行ってきたが、なかなか伝わらなかった部分もあったようだ。

3月には、就学前の保護者向けには説明会を行い、たくさんの方にお集まりいただいた。その時点での状況については、伝えられていたのではないかと考えている。

しかし、会長の言うとおりに、改善していく点もあると考えている。

(委員)

4校のうち3校が早く統合して、あと1校が1年後に統合というのは、3校の子が1年も経てば繋がりができている。1校だけ後からいくというのは、後からいく子が交わっていくのが大変ではないかと思う。

(事務局)

1点確認したいのだが、東吉川小の提言については令和4年度以降ということだが、必ず1年後というわけではない。これから東吉川地区で合意形成を図ってもらった上で、例えば、令和4年になるかもしれないし、令和5年になるかもしれないということでしょうか。

(会長)

それでよい。

3 協議事項

(会長)

説明会の意見を踏まえて、前回示した提言（案）に修正を加えている。慎重を期すために、提言（案）の本体である1ページから5ページまでを読み上げる。

（提言書（案）1ページから5ページまで読み上げ）

4ページにはスケジュールが示されている。令和3年度に統合するところは、この10月から統合準備委員会を設けて具体的な準備が始まるということになる。もうあまり時間はない。

（副会長）

学校再編の問題は難しいところがある。かなり間際になっても地域からご意見があって、しかも今までとは異なる意見が出てきたように感じた。それは仕方がないところがあって、いざとなったら心が揺れ動くところもあるのだろうと思う。ただ合意を得られている学校もあり、早く統合してほしいという声もあるので、今回こういう形で区切りをつけることは妥当なことだと思う。

学校再編というのは、これから学校に通う子どもたちのことを一番に考えなくてはいけない。そこで難しいのは、その子どもたちがこの場で発言できないということ。地域から意見を出していただくことは本当にいいことだと思うが、例えば、統合しなかった場合に、子どもたちが「もっとたくさんの友達と会いたかったな。」ということを思ったり、アフタースクールに通わせた時に、「こっちは統合していない。」「あっちは統合している。」となったりした場合に、子どもたちはどんな気持ちになるだろう。そういうことをおもんばかった上で、私たち大人がきちんと意見を言わないといけない。大人が大人として自分の要求を言うだけではだめなところが、この学校再編の難しいところだと思う。

この会議の中で、委員には、意見を言いたくても言えない子どもたちのために意見を言ってもらった。それはとてもありがたかった。その意見は今回の提言書に反映されていると思う。

今後、地域の中から様々な意見があった時には、地域の中でお互いの意見を聞き合うことをやっていただきたいと思う。もちろん、事務局は様々な意見を聞いているが、それだけで問題解決するということは決してないわけだから、地域の中で少数者の意見にも耳を傾ける、お互いに相手の意見にも耳を傾け合うことをしっかりとしてほしい。

これまで、50回を超える地域での話し合いが行われてきた。それだけ地域の方も事務局も丁寧に話し合ってきたということ。その成果としてのこの提言書は重く受け止めたいと思った。

（委員）

吉川の小学校は、今は4小学校でいろんな活動を続けている。例えば、修学旅行や自然学校へ4校一緒に行くなど、4校で一緒に活動する行事に取り組み

ながら、吉川中学校に入学していくというプロセスを作っていると思う。

今回の提言では、3小学校の統合となっているが、一番懸念するのは、そういうプロセスを、東吉川小のことも踏まえて考えた時にどうするべきかということ。新しい学校と東吉川小学校が、別々ということになってしまわないでほしいと思う。

東吉川小学校については、今までのように4小学校で同じように活動するというのもしかするとできなくなるというデメリットがある。いろんな意見を聞く中で、今のいいところは残しつつ、デメリットの部分も検証し、子どもたちにとってどういう方向がいいのかということを考えていってほしいと思う。

将来の全体像のイメージについては、10年から20年後には義務教育学校になっていくと思うが、10年や20年は、長いようであっという間に過ぎていくような気がする。だから、喫緊の課題をある程度クリアした時点で、10年から20年後の義務教育学校の長いスパンでの計画を早めに作っていくことが必要になると思う。

(会長)

委員の言うとおりでと思う。地域での説明会でも、同じような意見は出されたのではないかな。

(事務局)

吉川4小学校についての提言の「4小学校をみなぎ台小学校に統合する」という一つの柱について、統合する時期はずれるということだが、4校が一緒になるというところは、みなさんに共通理解いただいているところであると考えている。新しい学校については、4つの文化、4つの今までの歩みを集約して、さらに新しい学校を作っていくという姿勢で準備をしていく必要があると考えている。

委員から出された「10年から20年は長いようで短い。」ということについては、学校の人数のことや位置のことなど、たくさん宿題もいただいたので、研究を早速進めていく体制をとりたいと考えている。

(委員)

提言案については賛成である。原点に帰って一番大事なものは何か、会長が書かれた「はじめに」を読みながら、これまでの経過を思い出していた。

今まで学校がどれだけ地域に愛されていたのか、学校があっただけ地域があったのか、それとも逆なのか、それは分からないが、一つにまとまっていたところが、これから統合になってまた新しい学校ができる。学校だけじゃなくて、地域も行政も一緒になって新しいことを応援する、それが「三木モデル」となればいいと思う。最後は「三木に住んで良かったな。」と思ってもらえるような形になればいいと思う。

(委員)

提言案は妥当だと思う。志染中校区はこれで方向性が決まったと思う。緑が丘中校区についても去年11月に地域部会を行ったが、地域の方々もあれから

どうなっていくのかなと気にかけているところもあるので、ある程度の方向性が出た段階で、緑が丘、自由が丘などの地域部会を開いてはどうか。事務局の方で検討してほしい。

(会長)

それは当然、事務局で検討していると思うがいかがか。

(事務局)

形はまた考えたいと思うが、今日提言をいただいた内容について、何らかの形でお示しする必要があると考えている。

(委員)

事務局も、ここまで細かく対応されて大変だったと思う。これからも大変なこともあると思うが、なんとかいい方向に持って行ってもらって、学校を再編して良かったなという結果を期待したいと思う。

(会長)

それでは、これで（案）を取るということによろしいか。

(提言書（案）の（案）を取るで全員一致)

これから、総合教育会議、教育委員会と協議が進められていくわけだが、具体的な進め方について、当会からの希望を申し上げたい。

地域へは、さらに丁寧な説明を心がけてもらいたい。特に、喫緊の課題とされる学校へは、十分に説明を行ってもらいたいと切に願う。

今後、早くいけば10月から具体的な準備が始まる。その準備を行う機関としての統合準備委員会では、皆さんが大変関心をもっている通学方法について、じっくりと議論してもらいたい。

小中一貫教育についての研究を、さらに進めていってもらいたい。その結果については、学校の教職員も含め、地域の皆さんにしっかりと説明して周知してほしい。

(事務局)

今後の流れについて共通理解しておいた方がいいと思うので、説明させていただく。

今回、提言書という形で学校再編検討会議から提言をいただく。これについて事務局でしっかりと検討し、「学校再編に係る実施方針案」を作成する。この案について、市長、教育委員を含めた総合教育会議で協議を行う。その協議を経て、最終的には三木市教育委員会において決定する。

今後できるだけ早く実施方針案を作成し、先ほどお示ししたプロセスで実施方針を策定していく。

4 閉会（副会長あいさつ）

足かけ4年、途中いろいろあって、期間が空いた時期もあったが、ここまで

提言がまとまって本当に良かったと思う。委員の皆様には、お礼を申し上げる。地域の皆様からも、様々なご意見をいただき、本当に勉強になった。何より事務局におかれては、50回に及ぶほど地域に足を運んでいただいた。また、実際に自転車に乗って通学路を検証いただくなど、本当にご尽力いただき、お礼を申し上げたい。

これで終わりではないので、引き続き三木の学校がどのようにより良くなっていくのかということ、委員の皆さんと一緒に見届けさせていただきたいと思う。

また、ぜひここでの経験をこれから地域に返していただき、より良いまちづくり、学校づくりにご協力いただければ、教育に関係するものとしては大変うれしい。引き続き、今後ともよろしく願います。

(会長)

口吉川地区がどちらに統合するのかということを見極める必要があるので、少なくとも年度内にもう一回、会を開催することになると思う。